

札幌医科大学附属病院

# 医療連携・ 総合相談センターだより

創刊号



## 巻頭言

## 医療連携・総合相談センター広報誌 発刊によせて

清秋の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、札幌医科大学附属病院では、平成25年4月に医療連携・総合相談センターを開設し、この度、センター広報誌を発刊することになりました。

当センターは、「地域の保健・医療・福祉施設等との適切な連携を図る」、「当院と地域の医療機関との連携を充実させる」、「患者さんやご家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的問題等に対し適切な助言を行う」ことを使命として、医療支援、医療相談、医療・病病連携、栄養管理・指導など、医療関連のサービスの窓口業務を一本化して、対応する部門です。

紹介患者さんのFAX予約、スムーズな退院支援など、地域の医療機関と連携し、より質の高い医療の提供に努めていきます。また、各行政機関との連携窓口として、介護保険、自立支援、医療費助成制度の利用など、患者さんご家族の医療、生活、福祉などの相談にも応じております。

患者さんに安心して療養いただくため、看護師、社会福祉士、管理栄養士、事務職員が、医療機関や在宅ケア機関の方々と、院内の医師をはじめ各部門と連携を取り、対応いたしますので、お困りの際は、お気軽にご相談下さい。

今後も医療支援を充実させ、皆さまのお役に立てるよう努力してまいりますので、何とぞ、よろしくお願い申し上げます。



医療連携・  
総合相談センター長  
土橋 和文

## 医療連携・総合相談センター 業務のご案内

本院に通院・入院されている患者さんとそのご家族に、治療や入院に伴って起こる社会生活上の問題や心理的問題に関する相談をお受けしております。また、地域の医療機関と連携し、患者さんの受け入れと、退院に向けた支援を行っています。

### 医療相談

医療に関する心配事、家庭・職場の心配事、または経済的・精神的問題についてご相談に応じています。各種の公費負担医療（生活保護・児童福祉法・精神保健福祉法・特定疾患等）手続の援助も行っています。

担当 相談係 (内線3191・3192)



### 新患外来患者の予約受付



医療機関から紹介された患者さんの初診外来予約の受付を次の流れで行っています。

- \* 当日の予約・再来予約・検査のみの予約・入転院の予約は行っていません。
- \* 入院相談は受け付けておりません。入院依頼は、主治医から各該当診療科の病棟医長あてにご相談下さい。
- \* 訪問看護指示書など、主治医の記載が必要な書類は、医事センター文書受付窓口 (内線3204) あてに照会又は郵送でお願いいたします。



担当 医療連携係 (内線3132) FAX 011-621-2233

### セカンドオピニオン外来

\*セカンドオピニオンは、病気の診断や治療方針について、他の医師の意見を求めることをいいます。外来受診(検査・治療)とは異なりますので、ご注意ください。

セカンドオピニオンを希望する患者さん・ご家族を対象に、当院の専門医が患者さんの治療方針についてご相談に応じています。専用の申し込み様式がありますので、病院のホームページをご覧ください。

料金 21,000円 (消費税込み、相談は60分以内)

担当 医療連携係 (内線5123)

### 心理検査・カウンセリング

臨床心理室では、治療上の必要に応じて、各種心理検査（認知機能の評価、人格・性格・心理状態の評価）やカウンセリング（様々な悩みや問題を抱えた方のお話をお聞きし、不安・抑うつなどの症状の緩和や心の問題の解決などに向けた支援）を行っています。いずれも医師の指示が必要で、予約制となっております。

また、当院ではHIV患者さんへのカウンセリングにも力を入れており、医師の指示のもと心理検査、治療効果・精神症状の評価、自己理解へのサポートを行っています。



### 診療情報の開示

カルテ・画像などの個人情報を開示しています。

担当 患者サービス係 (内線3194)

## INFORMATION

### がん地域連携クリティカルパス

北海道の医療政策として、がん患者さんにわかりやすく安全で質の高い全道共通の医療を提供するため、胃・大腸・肝・肺・乳がんの5大がんについて「地域連携クリティカルパス（通称：連携パス）」を作成し、地域の医療連携に活用しています。

当院は、この「連携パス」を用いて、がん診療連携拠点病院と地域の病院や診療所が同じ診療方針で、安心して質の高い医療を提供したいと考えています。

かかりつけ医として連携パスに参加頂ける医療機関は、下記までご連絡を下さい。

担当 医療連携係（内線5123）

### 退院支援・退院調整

退院調整看護師と社会福祉士が増員され、地域の医療機関や在宅ケア機関との連携窓口として、様々な活動が本格稼働できる体制となりました。本年度より、退院支援スクリーニングシステムも始まり、様々な退院困難要因を抱える患者さんに対して、入院早期から必要な支援や調整をおこなっています。また、在宅移行のため関係機関とカンファレンスをおこない、安心が継続されるような調整をしております。

特定機能病院の在院日数は短いため、転院や施設入所、かかりつけ医の変更など次の療養先の決定は、患者さんやご家族の大きな決断の場面でもあります。特に、がん患者さんの医療調整も多いことから、療養先の選択肢や、医療機能の特色、制約条件等を提示し、建前ではなく本音で希望を語ってもらい、意思決定をしていただけるように努めています。患者さん・ご家族と医療者・関係機関との間に立ち、最善の方法が見つけられるよう、一人一人心を込めて支援することを使命としています。今後とも、各医療機関や在宅ケア機関の方々と当院との連携窓口として、より一層ご活用いただければと思います。

担当 退院支援係（内線3193・5125・5126・5127）



## 患者サポート

### 病院ボランティアの紹介 ～フローレンス～

当院には「フローレンス」というボランティアグループがあり、約70名の方が登録をして、毎日10名程度の方が交代で活動しています。正面玄関に入ると、ピンクやブルーのエプロンをつけて、患者さんににこやかに声をかけ、行き先案内や車椅子での移送などを行っているボランティアさんが迎えてくれます。

外来での案内の他には、入院患者さんへの本の貸し出しや小児科病棟プレイルームでの遊び相手、病棟ガーデニングのお手伝いを行っています。ボランティアの役割は、患者さんと地域の皆さまと病院を結ぶ架け橋と考えています。ボランティアをしてみたいと思われる方は、是非、ボランティア室（附属病院2階 ファミリーマートの向かい）までお越し下さい。



## CLOSE UP

### 「がん相談サロン」を開設しました

当サロンは今年度より大学医学部に開講した寄附講座「アイン・ニトリ緩和医療学推進講座」と当センターの連携のもとに運営されております。

がん患者さんやその家族が療養や生活について意見交換したり必要な知識を習得したりすることで、日頃の不安や悩みの軽減を図り、療養生活の質の向上を実現していくことを目的として、3つの柱で取り組んでおりますので、お気軽にご利用下さい。



#### ①交流会 (月2～3回、場所 保健医療学部棟1階)

「わかり合える仲間が欲しい」「気持ちを吐露する場がほしい」「治療の合間にホッとする時間が欲しい」という患者さん・家族同士が自由に語り合い、支えあうことができるように、スタッフがサポートしています。

#### ②学習会 (年数回)

医師や医療従事者が講師となり、療養・生活に関することについて、学びを深める場です。

患者さん・家族のニーズに合わせ、開催しています。第1回目は8月に「緩和ケアチームってなあに？」をテーマに開催し、多くの参加をいただきました。

#### ③個別相談 (平日8:45～17:15、電話・来所可) 専用電話:011-688-9506

当センターとがん相談サロンが連携し、治療や生活に関する心配ごとなど、がん医療に関わる相談や、心理的サポートを中心とした相談に専門スタッフが応じております。

※がん相談サロンウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/kanwa/salon/>

### 肝疾患相談センター

当院は、平成21年に道より「肝疾患診療連携拠点病院」の指定を受け、肝疾患相談センターを開設しました。肝疾患についての一般的な



医療情報の提供等を目的とした「肝臓病教室」(年6回)や、患者さんと支援者との身近な交流をおこなう「肝臓サロン」、肝疾患に関わる人材育成をおこなう「肝疾患フォーラム」等を開催し、肝疾患診療体制の充実に取り組んでいます。症状が未だ出ていない患者さんに病気に気づいていただき、早期から適切な治療を行うことや、発がんの防止をおこなうことが重要です。また、病気の不安や疑問を持っている方々に、相談や専門医療機関に関する情報提供を行うことで、不安を軽減し、医療を中断することなく治療を継続してもらえよう支援しています。応募により決定したイメージキャラクターの「のぞみちゃん」「まもるくん」が、普及啓発に一役買って活躍しています。

専用電話:011-611-5700 相談開設時間 平日 8:45～17:30

### 平成25年度 NST 専門療法士 実地修練研修 を開催しました。

当院は、日本静脈経腸栄養学会(JSPEN)からのNST教育施設として認定されており、院内外を問わず、NST実地修練研修を希望する医療従事者に対して教育プログラムを提供しています。

このプログラムは、栄養サポートチーム専門療法士認定規則に基づき、「臨床栄養法のために必要とされる患者との人間関係の確立を基盤とし、栄養学的専門知識を実際の臨床において発揮されるための技術を修得させる事」を目的とします。

今年は、院外から看護師や薬剤師、栄養士等5名を受け入れ、5日間計40時間の研修を行いました。毎年、募集をおこないますので、ホームページをご覧ください。



担当 栄養管理係、主査（給食管理）（内線3153）

#### 神経再生医療科

### 脳梗塞再生医療について

神経再生医療科 教授 本望 修



平成25年3月より、脳梗塞に対する再生医療の医師主導治験を行っています。脳梗塞は最新の医療技術を用いても後遺症の残る事の多い病気です。この治療法は脳梗塞患者自身の骨髄液から間葉系幹細胞を採取・培養後、静脈内に点滴で注射するのみで、肉体的負担が少ないという利点があります。さらに、患者自身の細胞を使用するために感染症・免疫拒絶反応などの危険性が低く、比較的安全性の高い治療法と考えられています。本治験によって有効性と安全性の実証を目指しています。

#### 本治験に参加出来る方は、下記を満たす必要があります。

1. 脳梗塞発症から20日をめぐに本学附属病院に転院出来る方。
2. 初発のアテローム血栓性脳梗塞である方。
3. 歩行や体を動かす動作には介助が必要である方、または、常に介護と見守りを必要とする方。
4. 年齢が20歳以上65歳未満の方。

\*なお、詳細な適格性の基準があり、参加いただけない場合がありますので、ご了承ください。



札幌医科大学細胞プロセッシング施設

本治験の詳細は、札幌医科大学ホームページおよび神経再生医療学部門ホームページの右側のバナー「脳梗塞再生医療 治験のお知らせ」よりご覧頂けます。

<http://web.sapmed.ac.jp/chiken-stroke/>

<http://web.sapmed.ac.jp/regeneration/index.php>

【コールセンター】 ☎0120-265-016

受付時間 9:00~17:00（土・日・祝日を除く）

## ファミリーハウスのご案内



小児慢性特定疾患や他の疾病で、長期入院している患者さんのご家族にご利用頂けますので、どうぞご利用下さい。但し、札幌市内にお住まいの方、及び患者さんだけの宿泊は出来ませんのでご注意下さい。

### 施設の住所

札幌市中央区南2条西18丁目  
(当院より徒歩7分)

居室数は10室です。料金は一室一泊 2000円(消費税込み)、寝具類は別料金がかかります。満室の場合は、低料金で宿泊できる他の施設をご案内しております。



申込直通電話 011-688-9508

## 各種案内

### —本院Webサイトにおける「医療連携・総合相談センター」の公開について—

本年4月から医療連携・総合相談センターのホームページを公開しました。

URL <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/mpc/>



### 編集後記

本年の4月に、札幌医科大学附属病院に医療連携・総合相談センターが開設され、半年が経ちました。このたび、広報誌を発行することができ、職員一同大変うれしく思っております。今回は創刊号ということもあり、当センターで行っている仕事を中心に紹介させていただきましたが、こちらからの情報提供だけでなく、本紙をご覧いただいている皆様からの情報提供も歓迎いたします。まだまだ不十分な点がありご迷惑もおかけしていると思っておりますが、地域の皆様のご協力やご支援を賜りながら、職員一同頑張っていくこととしておりますので、今後ともよろしくお願いたします。



横山副センター長

## 札幌医科大学附属病院 医療連携・総合相談センター

札幌市中央区南1条西16丁目 TEL: 011-611-2111 (代表) FAX: 011-621-2233

患者サービス係 (内線3188) 医療連携係 (内線5121) 栄養管理係 (内線3153)  
主査(支援) (内線3194) 退院支援係 (内線3193) 主査(給食管理) (内線3153)  
相談係 (内線3189)